

## メインフォーラム ① 「『山の辺の道』沿いの里山資本と活かした地域づくり」

日時 2014年11月29日(土) 15:00~17:30

場所 天理市文化センター

### 基調講演

演題: 「里山資本主義」のススメ

講師: 井上 恭介 氏 (NHK チーフ・プロデューサー)



基調講演をする井上恭介氏

#### (1) 「里山資本主義」とは (20世紀の常識から21世紀へ 転換のキーワード)

##### ▽ 「マネー資本主義」一辺倒に異を唱える「里山資本主義」

- ・20世紀という「分業」と「分断」の時代への疑問
- ・リーマンショックと東日本大震災で気づいた「完成された大きなシステム」の危うさ

##### ▽ 「エコストーブ」に見る、里山資本主義の思想と理想

- ・活かされない身近な資源「山の木」を活用 正式な「経済」→私的な「生活」
- ・廃品である「ペール缶」を手作業で改造・製作 完成したものを与えられる→自分で楽しみながら
- ・最先端炊飯ジャーよりおいしいご飯 進歩と発展しつづいた時代の「最先端」とは？

##### ▽ 「ペレット」が問い直す、私たちの固定観念

- ・製材所の「産業廃棄物」がエネルギーに 「売り上げ」アップ→「支出」を見直す
- ・石油のように市場価格の乱高下がない 「グローバル」に隷属→自立した「地方」
- ・石油のように供給・宅配するオーストリアの「ペレットタンクローリー」懐かしい未来！

#### (2) 里山資本主義が目指す「地域の資源を活かしきる！」

##### ▽ お年寄りが食べきれない「菜園の野菜」を高齢者施設の食事をまかなう

- ・市場に出せなくても、使える / 外にお金が逃げていかない
- ・一方的な「ケア」から、互いに役立つ関係へ

##### ▽ 「山の辺の道」をもっと活かさないか！？

- ・「日本最古」満載の道、「やまと」も「卑弥呼」も、という豪華な道
- ・「目に見えないものも資源」という常識破り (里山資本主義「神様を活かせ」の試みから)
- ・ウォーキングも食もおみやげも、「木や自然を活かした暮らし」も併せて里山資本主義



## パネル討論

パネリスト 井上恭介氏

仲川げん氏（奈良市長）

松井正剛氏（桜井市長）

並河 健 氏（天理市長）

コーディネーター 佐藤孝則（NPO 法人 環境市民ネットワーク天理理事長）



### ■ 3市長からのコメント

#### ● 奈良市長 仲川げん氏

##### ① 山の辺の道・奈良道の紹介

この道の特徴について

##### ② 山の辺の道・奈良道の保存と発信保存のための道標などの整備や、

情報の発信の実施について

##### ③ その他の奈良道を守る会の活動遠足の誘致や講演会の開催などについて

##### ④ 山の辺の道連絡協議会について

奈良県と山の辺の道が通る3市や3市の観光協会等の連携による地域づくりについて

##### ⑤ まとめ

#### ● 桜井市長 松井正剛氏

##### ① 山の辺の道周辺地域の紹介

##### ② 里山資本主義の視点

○私が考える里山資本主義とは

○山の辺の道沿いの里山資本主義とは

・道沿いにある里山資本（自然の恵み、農村資源。数多くの歴史文化遺産）



○山の辺の道沿いの農業の現状

- ・歴史的農村景観を維持していくには

○山の辺の道沿いの里山資本を活かした地域づくり

- ・小さくても地域で経済が循環する仕組みの創出
- ・農業の六次産業化 / 歴史文化遺産の活用

● 天理市長 並河 健氏

- ① 天理市の高原地域・東山麓・南部地域での里山は自然に放置しては崩壊しかねない。6次産業と周遊観光の根拠地として合わせながら、豊かなライフスタイルを提供する街としてブランディングできれば大都会とは違う魅力になる。
- ② 里山では、ホオズキのジャム（大阪のリッツカールトンホテルで使っている）を作ったり市民に知られていない物も沢山ある。
- ③ 天理駅前空間デザインプロジェクトでも、県産材の発信を重視しており70%木材（できれば地元の木）を使った樹脂材を使いたい。
- ④ 川、自然、野生動物との接触が近すぎて特別に考えられないのが天理。それを再度、市民に感じてもらいたい。天理市役所前の布留川に子ども達が入れ川遊びできるようにしたい。天理市役所の池の一つをビオトープにすることも可能。
- ⑤ 放棄地対策・空き家対策・・・外から人が入ってくる事に抵抗がある。中間管理機構で頑張っているが、実際は難しい。河瀬直美監督が天理で米作り・野菜作りをしているが誰でもはできない。市民農園等を更に進めたい。空き家対策も地元から候補を出してもらって行政が仲介して、先ず成功事例をつくり、すそ野を広げていくことが重要。
- ⑥ 山の辺の道・・・県、奈良市、桜井市と連携した協議会が発足。位置情報を使って解説ができるアプリを整備中。外国語版（天理大学の協力）もつくって遺跡・古墳等の解説をできないか。
- ⑦ まちのコンテンツ力を発揮できるかが課題。－企業が来る（旨みがある）土壌を作る必要がある。－「天理は何かやるぞ！」という空気・流れを今、作っている。

